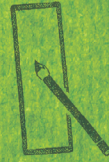


文芸きくち



万句の里俳句会 4月句会

独り居に二人静の殖えゆけり
牡丹咲く一気に庭の華やぎし
初蝶の影も遊んで行きにけり
子雀のしばしの甘え昨日今日
春の風邪ことにのど飴ありがたし

隈部 輝子
田中 美智
松永 久子
光本とよいち
宮本 敏子

せせらぎ俳句会 4月例会

背に受けし一陣の風花吹雪
出会いあり別れもありか春惜しむ
シルバーカー押して今日から夏帽子
口惜しやコロナ一色春が過ぎ
若葉風寺の薨を滑り降り

寺本 和子
五丁 義昭
藤本アツ子
森 正子
坂崎ユキ子

旭志文芸教室俳句の会 4月詠草

早咲きの桜蕊降る里の道
峡の里野山も集落もおぼろなり
観客の無き春場所の力士かな
鳥雲や噴煙続く阿蘇の景
仏前に孫の手紙と利休梅

中尾ヨシコ
芹川のり子
水谷 ミネ
芹川 蓉子
稗田 達恵



七城短歌会 4月詠草

バックして車を入れる駐車場齡とる程にすんなり苛ず
狭き畑なれど馬鈴薯作りたく慣れぬ鋤もて土堀り起こす
歌詠みの浅き吾には深すぎる助動詞助詞の遣ひ戸惑ふ
ビニールのハウスのお陰向日葵の初花揃ゆまだ春なのに
はやり病最中に義兄の納骨ゆ我伴えぬ甥医者ゆえに

嶋田 晴美
緒方 寛子
渡辺 光夫
高木 精
佐々 重弘

「里」短歌会 4月詠草

手作りのマスクを着けただけなのに今日の散歩の脚の弾みよ
手だてなくコロナウイルスは奪い去る命に向き合う刻を与えず
狭庭辺のビオラの群れの織る錦春雨浴びていよよ艶めく
「いつ来るの」孫の紗菜よりメール来て赤い？の行列ならば
園庭のお地藏様に手を合わせ二人の一歳児ゴニョゴニョゴニョと

前原 ゆみ
坂本 玲子
松本 和子
江頭 桂子
緒方 悦子

溪流短歌会 5月詠草

咲き初めしダークレッドの紅空木コロナ風吹くわが庭飾る
新しくゴミの分類四苦八苦夫と久々共同作業
目に見えぬコロナウイルスの破壊力漂いながら街鎖しゆく
穏やかな春を願えど世界中前代未聞の悪魔の手中
春たけて川波いざよふこの岸辺菜の花明かり早瀬のひびき

山城 雅子
田中 遥子
岩根 博恵
堤 よしみ
中川 愛子

菊池短歌会 5月詠草

魚を煮て緑と赤の野菜そえ百歳の母が娘もてなす
学問は女には邪魔といわれたる昔にあなたは少女となりき
炎の如く雲上オペラ唄い上げ真逆様に落ちくる雲雀
幽明の親しき人ら春愁のきざせるほとりひそとおはしぬ
新型コロナのはて見えぬ日のひそかなる家居の窓にえびね草咲く

川口すみ子
古賀 勝土
中川 愛子
怒留湯健齋
安藤 則子

入会希望など詳しくは、
それぞれの句会や歌会
にお尋ねください。

万句の里俳句会
せせらぎ俳句会
旭志文芸教室俳句の会

井芹 ☎090(1342)2151
藤本 ☎0968(38)4087
中尾 ☎0968(37)2578

七城短歌会
「里」短歌会
菊池短歌会

佐々 ☎0968(24)3761
／溪流短歌会
木原 ☎090(5284)2418
安藤 ☎0968(25)4285